●○●○●○

で５０数名が教室を通り抜けました。とても卒業とはいえません。子ども達の脳裏にどれだけ囲碁の楽しさを残せたのか。
いつかまた始めてくれることを願っています。
　最近うれしいことがあります。今年の４月にやめた５年生の３名がときどき遊びにきて、一局打って帰ります。まだ、名簿の残っている出席簿に〇印をつけます。
いつでも見学 OK です。　毎週土曜日　13：30～16：00

熊本チビッコ碁友会（託麻囲碁クラブ）

（熊本市保田窪５丁目９－２３　　℡096-382-0174　西山育子・田中信夫）
目標
平成２４年の目標をたてて、それに向かって挑戦しましょう。「１２月までに１０級になる」「５級になる」「初段になる」「県の代表になる」…等々。
目標は大きく持って下さい。１月の教室で、先生に君の目標をそっと教えて下さい。
礼節
「きちんと座る」「きちんとあいさつする」「着手点がきまってから石をにぎる」「対局中よけいなおしゃべりをしない」これらのことは、囲碁教室では当たり前のことです。でも、難しいのです。囲碁を始めたからといって、すぐに礼節が備わるわけではありません。囲碁では継続して、習慣づけられるから、礼節を学べるのです。
囲碁のすばらしさと日々の出来事を紹介しようとブログをしています。ぜひ見てください。

http://blog.goo.ne.jp/kumamotochibikkogoyukai

母と子の囲碁教室

（熊本市下江津 3-4-7　℡096-370-2263　江藤由久子）
　近頃、子ども囲碁普及の同士を求めて、あちこち訪問しております。思いのある方はあちこちにいらっしゃいますし、過去に子ども教室をやっていた支部もありました。しかし、どこでも長続きしておりません。原因はどこにあるのだろう？と考えてみました。どうも子どもの目線に立っての楽しみ、喜びを指導しないで技術の指導を優先し失敗しているような気がします。これから、一歩一歩手探りで、指導法を確立せねばと思っております。熊本でやっと普及の芽生えがでてきましたから、各教室の先生と連携を取りながら普及の輪が広がっていくことを念じています。

佐土原子ども教室

（熊本市佐土原１丁目１０－１　　℡096-367-1707　渡辺利男）
昨年７月に教室を開設して６ヶ月、現在５才から中３まで２０名の生徒数です。月曜日だけが休みで、他の６日間は、午後１時から７時までいつでも都合のいい時間に来ていいようにしています。生徒さんそれぞれ部活や習い事も多く、来室できる曜日や時間帯はマチマチなので好評です。多い人は週３回来ています。
　９路盤でルールを教え、１３路盤から１９路盤に行き着くのは個人差もありますが、来室１０回を超える頃からで、１９路盤になるのをワクワクして待っているようです。

定石や布石の基本を教えても全く独創的な手を打つ子もおり、どんな発想なのか頭の中をのぞいてみたい衝動にかられます。伸びの速い子、大器晩成型と色々個性がありますが、要はもっと強くなりたい、もっとたくさん学びたいという意欲の強弱で差がついていくようです。生徒それぞれの個人差に合わせながら、対戦前にテキストをさせたり、プロの布石を５０手まで並べさせたりと試行錯誤しながらやっています。

とにかく、囲碁の勉強がストレスにならないように、たのしくボチボチが基本です。

今の学校教育は、競争社会での生きる力をつけることに一生懸命ですが、生きる楽しみを知ることも大切だと思います。教室に来たこどもたちが、囲碁を一生の友として楽しめるようにしていきたいと思っています。

年末は保護者の方も一緒
に楽しい餅つきをして、
盛り上がりました！

日本棋院玉名支部初心者教室

（玉名市岩崎 154-1　　℡0968-74-4968　支部長　有働博一）

初心者教室の今

“囲碁したい　でも分からない”・・・そのような人たちの願いをかなえようと日本棋院玉名支部に初心者囲碁教室が生まれて４年が過ぎました。現状の取り組みについて簡単に紹介します。

＊教室の受講生は、増えたり減ったりで、現在大人１０名（男３．女７）、子ども６名（男３．女３）である。

＊教室は火曜日（平野宏）と土曜日（奥村健二郎、隈部敏）で、いつでも受講できるようにしている。しかし、２日とも受講している人は大人４名だけ。少なくとも週２回は受講して欲しいが…。

＊３月から受講生の囲碁大会を毎月第一土曜日に実施しているが、この大会を始めてから受講生の囲碁への意欲が高まってきたように思う。

＊昨年１１月の「第１６回熊本青少年囲碁の集い」に５名参加。初めての他流試合で、子ども達はとても緊張したと言っていたが、よい経験になったのでは。今後このような大会にもできるだけ参加させていきたい。

＊日ごろの対局で注意していること。

①はじめ・終わりの挨拶　②よく考える（３手よむ）③打つところが決まってから碁石を持つ

④早打ちをしない・・・等

たくさんの方の参加をお待ちします。

●○●○●○　　●○●○●○　　●○●○●○　　●○●○●○　　●○●○●○　　●○●○●○

【第一回　くらしき吉備真備杯（きびのまきびはい）こども棋聖戦】を観戦して

２０１１年１２月１７日（土）・１８日（日）　於：岡山県倉敷市

囲碁を楽しむ子どもたちにとって、すばらしい大会ができました。熊本からは高学年の部に黨泰志くん（清水小）と低学年の部に画図小２年吉田薫君が県代表として参加しました。一回戦はみんな緊張している様子です。真剣にパチパチと打っています。囲碁を通して心のふれあいもできました。残念ながら、二人とも予選突破できませんでした。来年は上位入賞を目指して棋力向上をめざさなければなりません！（江藤）

「吉備の真備杯に参加して」 感想

どきどきしました。そして一回せんでまけて、二回せんでまけてなきました。ぜん国の人とたたかえてうれしかったです。３年生になったらまた、くらしきの大会にでたいです。

低学年の部　画図小　２年　吉田　薫

ぼくは全国大会に出るのは初めてなので、最初はとてもきんちょうして足のふるえがとまりませんでした。一回戦も二回戦も投了して惨敗しました。３回戦はあとちょっとの所で負けました。とてもくやしかったです。五年生だからもっと勉強して来年も出場したいです。

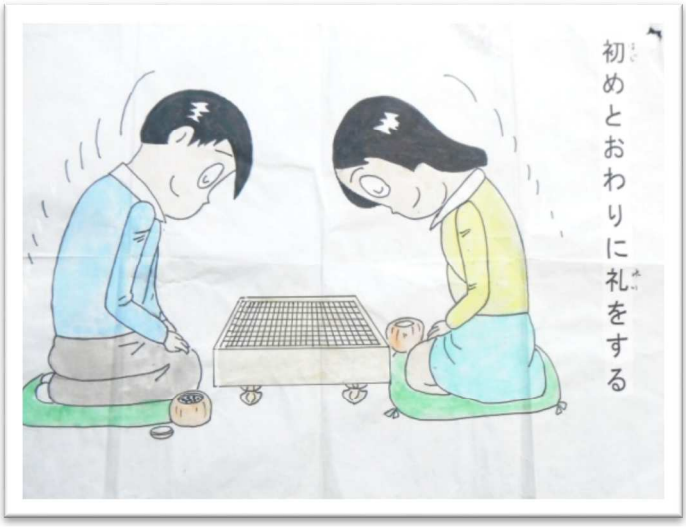
高学年の部　清水小５年　黨　泰志

★吉備真備とは？・・・奈良時代、唐の国から多くの大陸文化を日本に伝えた偉人です。囲碁を最初に日本に持ち帰ったと伝えられています。

★くらしき吉備真備杯とは？・・・吉備真備ゆかりの地である岡山県倉敷市真備町で、その偉業を顕彰するとともに、囲碁文化の振興と倉敷市の魅力を発信するために開催されたものです。各県小学校低学年の部・高学年の部の各代表が参加して戦いました。今年も第二回大会が開催される予定です。
なお、初回こども棋聖は下記のとおりです。

低学年の部　　川口飛翔（埼玉・小３）
高学年の部　　林　隆羽（埼玉・小５）

●○●○●○　●○●○●○　●○●○●○　●○●○●○　●○●○●○　●○●○●○
●○●○●



★★★★★★★★★★

“初めとおわりに礼をする”

ＲＫＫコミュニティセンター藤森先生の作品です。囲碁をする子どもにとって一番大切なことではないでしょうか。囲碁をすると礼儀正しいこどもが育つといわれています。

★★★★★★★★★★

敵の急所は我が急所

２０１２年を迎えるにあたり、日本棋院ではプロ棋士１３０人に大アンケートを実施、その結果が**週刊「碁」**お正月号に載っています。棋士が選んだ**格言ベスト１０**を紹介します。
一位の敵の急所は我が急所という格言は囲碁のみならず、他の競技や生活においてもあてはまりそうですね。

１　位	敵の急所は我が急所	(85)
２　位	厚みに近づくな	(49)
３　位	厚みを囲うな	(44)
４　位	一間トビに悪手なし	(37)
５　位	切り違い一方ノビよ	(36)
６　位	死はハネにあり	(35)
７　位	ポン抜き３０目	(32)
７　位	攻める石にツケるな	(32)
９　位	二子にして捨てよ	(28)
１０位	アキ三角を作るな	(27)

詰め碁を解く道しるべ→"早い者勝ち"

敵の急所は我が急所を選んだ**張栩棋聖**は次のようにコメントしています。
・・・僕がこの格言を最も意識するのは、詰め碁を解くときです。詰め碁では「ここに打たれたら困る」という発想が重要なスタートラインになります。この急所を逃したら、こちらが何手打とうが簡単に生きられてしまう。「ここに打たなくては話にならない」という絶対の急所が存在するのです。だからまず相手の急所に目を向けることが詰め碁を解く最大のカギになります。
　正直、対局中に格言を思い出しながら打つことはありませんが、後で振り返ると「あれ、この格言に通じるな」と思うことはしょっちゅうです。

　また、**謝依旻女流本因坊**も「敵の急所は我が急所」を選びました。
・・・私はこの格言しか選びませんでした。実は色々考えてはみたのです。私も、私ポン抜きは平気で打たせるし、厚みには図々しく近づくし、アキ三角の愚形にはよくなるし、一間トブと甘くなることが多い・・。どの格言もあまり語る資格がないのです（笑）その点、敵の急所・・は実戦でも詰碁の場面でもとてもよく出てきます。一番嫌な手（急所を突かれる手）を打たれたら苦しくなるのが囲碁というゲームですから、この格言さえ覚えれば実践でも必ず役に立つはずです。

（　週刊碁２０１２年１月２・９合併号より）